

維持透析患者における TBI(足趾/上腕血圧比)の有用性

第 65 回 大阪透析研究会

第 51 回 日本透析医学会学術集会

丸山禎之・戸田和美・我那覇志真子・林 彩子・松本芙美子・河井里枝・岡本真由美・和田 茂・佐々木敏作¹／脇川 健²(佐々木内科クリニック 腎センター¹／大阪掖済会病院 内科²)

【目的】維持透析患者において ABI、TBI を測定し、その有用性について比較検討した。

【方法】透析患者 58 名(116 肢)を対象に、コーリン社製 form を用いて、ABI、TBI を測定した。また Fontaine 分類による下肢臨床症状調査を行い、比較検討した。さらに、2 年前に ABI、TBI を測定しえた維持透析患者の追跡調査を行なった。(ABI、TBI の 2 年間での変化(23 名)および重症虚血性下肢病変発症率(50 名))

【結果】ABI と TBI は良好な相関($r=0.46$ 、 $p<0.00001$)が見られた。ABI は Fontaine 分類からみた重症度との関連が弱く、Fontaine 2 度以上を示した患者(20 肢)の 95% は TBI 0.6 以下であった。2 年間の経過では ABI は変化がなく、TBI は有意($p<0.001$)に低下していた。TBI は重症虚血性下肢病変発症(5 肢)に対する感度が 80% と ABI(40%)より優れていた。

【結論】透析患者の閉塞性動脈硬化症の重症度や予後の判定において、TBI は ABI よりも有用であった。